

第5節 タイプ別の職業経験

本節では、無業者の職業に関する経験として、離学直後の状況と初職、就労経験、無業直前状況、無業期間についてタイプ別・性別に検討する。

1 各タイプの離学直後の状況と初職

表3-1-6には、離学（最後に通った学校の卒業ないし中退）直後の状況をタイプ別・性別に示した。「自立調査」の非在学者サンプルと比べて無業者では「すぐに就職」の比率が30ポイントも低く、逆に「特に何もしていない」及び「進学・留学準備」の比率が高いことが特徴的である。こうした無業者の特徴は特に男性で顕著である。無業者内部の各タイプ別の傾向は次のとおりである。

まず「求職型」は、離学直後に「すぐに就職」した比率が男性で64.9%を占め無業者内部では最も高いが、それでも「自立調査」の非在学者サンプル全体と比べると20ポイント近く低い。同比率は「求職型」女性でも60.0%と無業者の中では高い。ただし「求職型」の「すぐに就職」した者の中で初職が「民間企業の正社員」である比率は、男性で41.7%、女性で55.6%にすぎず、男性の50.0%、女性の22.2%は初めて就いた仕事が「パート・アルバイト・非常勤職員」である。

「求職型」では離学直後に「求職」していた者も男性18.9%、女性20.0%と、無業者全体の12.1%、非在学者全体の7.8%と比べて高い。離学直後に「求職」していた者がその後初めて就いた仕事の就労形態は、男性では42.9%、女性では66.7%までが「パート・アルバイト・非常勤職員」である。

次に「非求職型」は、離学直後に「すぐに就職」が男性42.9%、女性60.0%、性別計で51.7%と過半数を占める。ただしやはりその中で最初の仕事が「正社員」である者は男性50.0%、女性38.9%にすぎず、男性の25.0%、女性の55.6%は最初の仕事が「パート・アルバイト・非常勤職員」である。「非求職型」男性では離学直後に「進学・留学準備」をしていた者が25.0%を占める。男女とも約20%が離学直後に「特に何もしていなかった」と答えている。

そして「非希望型」では、男性の中で「すぐに就職」した者は17.6%と低く、代わりに「進学・留学準備」が35.3%、また「特に何もしていなかった」が41.2%と高い。女性では46.7%が「すぐに就職」したと答えており、その中で71.4%までが「正社員」を最初の仕事としている。

以上をまとめると、「すぐに就職」した者の比率は「求職型」>「非求職型」>「非希望型」の順、逆に「特に何もしていない」及び「進学・留学準備」の比率は「非希望型」>「非求職型」>「求職型」の順となる。こうした順序性は、女性よりも男性で著しい。

表3-1-6 無業者タイプ別性別 離学直後の状況

		すぐに就職	求職	進学・留学準備	結婚準備	何もせず	その他	不明	合計	
求職型	男性	度数 24	7	1	0	5	0	0	37	
		% 64.9	18.9	2.7	0.0	13.5	0.0	0.0	100.0	
	女性	度数 18	6	1	1	3	0	1	30	
		% 60.0	20.0	3.3	3.3	10.0	0.0	3.3	100.0	
	男女計	度数 42	13	2	1	8	0	1	67	
		% 62.7	19.4	3.0	1.5	11.9	0.0	1.5	100.0	
非求職型	男性	度数 12	1	7	0	6	1	1	28	
		% 42.9	3.6	25.0	0.0	21.4	3.6	3.6	100.0	
	女性	度数 18	4	1	0	6	1	0	30	
		% 60.0	13.3	3.3	0.0	20.0	3.3	0.0	100.0	
	男女計	度数 30	5	8	0	12	2	1	58	
		% 51.7	8.6	13.8	0.0	20.7	3.4	1.7	100.0	
非希望型	男性	度数 3	0	6	0	7	1	0	17	
		% 17.6	0.0	35.3	0.0	41.2	5.9	0.0	100.0	
	女性	度数 7	1	3	0	3	1	0	15	
		% 46.7	6.7	20.0	0.0	20.0	6.7	0.0	100.0	
	男女計	度数 10	1	9	0	10	2	0	32	
		% 31.3	3.1	28.1	0.0	31.3	6.3	0.0	100.0	
タイプ計	男性	度数 39	8	14	0	18	2	1	82	
		% 47.6	9.8	17.1	0.0	22.0	2.4	1.2	300.0	
	女性	度数 43	11	5	1	12	2	1	75	
		% 57.3	14.7	6.7	1.3	16.0	2.7	1.3	100.0	
	男女計	度数 82	19	19	1	30	4	2	157	
		% 52.2	12.1	12.1	0.6	19.1	2.5	1.3	100.0	
非在学者全体		%	82.6	7.8	2.6	0.5	3.5	1.2	1.8	100.0

2 各タイプの就労経験

各タイプの就労経験を見ると、「求職型」では92.5%（男性の89.2%，女性の96.7%）、「非求職型」では72.4%（男性の57.1%，女性の86.7%）、「非希望型」では40.6%（男性の29.4%，女性の53.3%）が過去に何らかの就労経験を持っている。すなわち、就労経験率は「求職型」>「非求職型」>「非希望型」の順に高く、またいずれのタイプについても女性の方が男性よりも高い。特に、「非希望型」男性の就労経験の低さが無業者の中でも際立っている。

3 各タイプの無業直前状況

無業になる直前の状況をタイプ別・性別に示したものが表3-1-7である。無業者全体では最も多いのは「パート・アルバイト・非常勤職員」であり男女とも44%近くがこれに当たる。次いで多いのは男性では「学生・生徒」（25.6%）、女性では「民間企業の正社員」（25.3%）である。

タイプ別の特徴は次のとおりである。

まず「求職型」は、男女計で最も多い無業直前状況は「パート・アルバイト・非常勤職員」の46.3%（特に男性では51.4%）、次いで「民間企業の正社員」が37.3%（男女ほぼ同じ）である。他のタイプに比べて「正社員」の比率が20ポイント以上高く、逆に「学生・生徒」が男女計で4.5%と極めて少ないことが特徴である。

「非求職型」では、男女計で最も多い無業直前状況はやはり「パート・アルバイト・非常勤職員」の50.0%（特に女性では56.7%）であるが、それに次いで「学生・生徒」が22.4%（特に男性では32.1%）となっている。「正社員」は男女とも約14%にとどまる。

「非希望型」の場合、他のタイプと異なり男女計で最も多い無業直前状況は「学生・生徒」の43.8